

◆◆◆ 気象情報を XML 形式での提供について気象庁検討を開始 ～数年先の新しい情報提供をめざして～

気象庁の保有する情報の種類は多種多様で、そのデータ形式（フォーマット等）もいくつもの種類が存在します。例えば、天気予報や注意報・警報をはじめとした文字形式情報、数値予報や気象レーダーのようなバイナリー形式の情報などです。これらの情報の利用にあたっては、それぞれプログラムで対応する必要があり、汎用性がないことから解読のための専門知識が必要なことと、フォーマットの変更の度に関連するプログラムの改修に多大な経費と時間が必要といった隘路が問題となってきました。

気象庁では、警報・注意報、地震情報等の各種防災情報について、汎用性の高い XML 形式での情報提供を開始することで、その準備を開始しました。具体的には、気象庁と「XML コンソーシアム」で各種気象情報の提供に XML を使用するための仕様策定を開始したとの報道発表が 2 月 1 日にあり、仕様策定後、一定期間の試験運用を経てから当該形式による情報提供を開始するとしています。当対象として考えられている情報は下記のとおりです。

気象警報・注意報、台風情報、津波警報・注意報、緊急地震速報、地震情報、
噴火警報・予報、天気予報、週間天気予報等

XML は、データの意味や構造を記述するためのマークアップ言語の一つです。マークアップ言語としては、インターネット上のホームページの記述言語の HTML がよく知られておりますが、これらは、タグと呼ばれる識別用の文字列をデータに埋め込み、このタグを引用することでいろいろな表現が可能となっています。HTML のタグが固定なのに対して XML のタグはデータ作成者が独自のものを定義し、階層的なデータ構造定義や拡張性のあるデータ形式を構成することができ、より柔軟なデータの表現が可能となります。このような特長を持ったデータ形式の採用により、それぞれの要素に意味と内容を持った気象情報の表現には最適なものと言えるでしょう。

今回の気象庁の発表は、XML 形式による気象情報の作成・発表に向けての検討開始について述べたもので、実施の導入までには数年間の準備が行われることになっています。気象庁では、一定の時点で気象情報利用者の意見の聴取等を行なうとしています。XML 形式の情報は、各種情報処理システムやインターネット上で広く普及しており、汎用性が高いことから柔軟な利用が可能で、新たな情報提供の早期実現や経費の節減が期待されております。

HTML : Hyper Text Markup Language

XML : Extensible Markup Language

XML コンソーシアム : XML 技術のビジネスにおける実用化推進を行う国内唯一の団体で、セミナー・イベント、部会活動、情報発信、標準化推進、各業界団体との連携などの具体的な活動を通じて、さまざまなコンピュータシステムにおける XML 技術の適用の推進にあたっている。

気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) 上の報道発表資料
(<http://www.jma.go.jp/jma/press/0802/01a/jmaxml20080201.html>) より